

ものにあつては標準工事費(床面積一坪當り三十圓)に對し、公有建築物の場合はその三分の一以内を國庫から補助し、私有建築物では市町村が二分の一以内を補助し、國庫はこの市町村の補助金の二分の一を負担します。私有建築物であつても公共的性質のもの(例へば學校、病院等)では市町村は三分の二以内を補助し、國庫はこの市町村の補助金の二分の一以内を負担します。

これら防空法の規定に基づいて防火改修の範圍、程度、方法を他必要な事項を規定したものが防火改修規則で、去る三月二十七日公布され、四月一日から實施されました。

この防火改修規則の主な内容について説明します。

地方長官は、前記の防空建築規制の全部が適用される市町村の重要な部分に防火改修施行區域を指定し、その區域内の木造建築物に對して各年度計畫に

從ひ逐次施行命令を出すことになつてゐます。

この防火改修とは既設の木造建築物を大體防空建築規制の防火構造に關する規定に準じた構造に改めることです。

その工事の施行は大規模木造建築物の場合は個々に行つても差支へありませんが、街郭を構成してゐる一般木造建築物では、一軒毎に別々に行ふよりも近隣同時に共同して行ふ方が設計を合理化して少い費用で一層防火的に完全な工事ができるので、原則として一街郭毎に一群として施行することになつてゐます。この場合は、従來通り組合を結成して工事を施行するのが便利と思はれます。

なほ防火改修をなすに必要なる手續等細かい事項については各道府縣で防火改修規則施行細則が定められる豫定です。

防火改修は現下の情勢に鑑み一日も

忽せに出來ない事柄ですから建物所有者の自發的協力を望む次第ですが、最後に、各地における防火改修工事は、すでに相當進捗し、これらの建築物が不慮の火災に際し極めて有効な防火力を示した事例がかなり多數にのぼつてゐることを附言しておきます。

寫眞週報

特輯 戰時輸送強化運動

- ☆船は兵隊だ、わが海軍兵隊の〇〇船所紹介
- ☆汽車も兵隊だ、重要物資運送に大馬力をかけてゐる鐵道、輸送に協力する車長隊員
- ☆脚だ、腕だ、われらの武器は、空襲の激戦とわれらの心構へ(空襲)
- ☆スラバヤ沖海戦、シニエー島の決戦エッセーを語る
- ☆明るく伸びる瀬戸少年院の少年たち、少年隊員を育てて
- ☆教壇に立つ日も近し、道兒を抱いて、岐阜特設國民學校校庭裏庭所

四月八日發行

新らしくできた 婦人標準服

厚生省

婦人服改善のために、今回、その日常着の標準型が決まりました。私達はなせかうしたことが必要かを深く考へて、衣服生活の建直しをいたしませう。

婦人服改善の必要

私達國民の生活は、戦時下の今日、あらゆる部面に亘つて、急速に刷新され改善されねばなりません。それは皇國が、無限の勝利と發展に備へて、より大きな力を培はねばならないからで、従つて衣服の問題は、生活の三大要素といはれる食、住と共に私達にとつてまことに重要なことと申さねばなりません。

國民の衣服は、今まで久しい間、指導の行はれた例がなく、全く各自の自由に任されたまま、文化の流れと共に變遷して來て、今日みるやうに、一方では傳統を誇る和服があり、他方には歐米を模倣した洋服があつて、その間に歸する處がなく、雜然文字通り亂脈に流れてゐました。殊に婦人の洋装に至つては、動もすれば自覺のない模倣に走り、國民衣服としての自主性を缺いてゐて、國民の容儀上は勿論のこと、

延いては思想上にも悪影響を及ぼす虞れがないとはいへない程です。また一方、衣服の科學的な方面からみましても、保健上または活動能率上、或ひは經濟上等からも遺憾の點が少くない實狀です。

研究の經過と考案の方針

政府ではさきに男子の國民服を制定して、軍民被服の近接と合理化を圖りました。が、婦人の衣服も改善する必要がありますので、昨年六月に厚生省に婦人標準服研究會を設け、斯界の權威者二十餘名を委嘱して研究を進めて來ました。この研究は一面廣く國民の協力を求めることが適切でありますので、被服協會と大日本國民協會の兩團體を煩はして、試案の懸賞募集を行ふ等、研究には萬全の方途を講じました。その結果、考案についての方針が定められ、「先づ婦人の服装の基準である日常着を中心に考案すること」になり、次ぎのやうな要點に準據して考案されました。

一、日本婦人の服装として相應しく日本の性格を表現することを根本理念とするこ

と 大東亜はいふに及ばず、世界の指導者である日本の婦人の服装として自主性のある優れた衣服を創造してゆくことは當然のことで、構想の根本をこゝに置いたのです。

二、質実簡潔にして、容儀を正しくし、眞の女性美を發揚させること

戦時下の今日、輕佻浮華を避け、容儀を著して眞の日本婦人としての美を顯揚する必要はこゝに改めていふまでもありません。

三、民族強國の要請は應じ婦人の保障上、最善のものとする

日本民族をより強大にせねばならぬ必要が今日ほど痛感されることはありません。母たる人、母たるべき人々の健康はまことに大事で、今までの衣服の缺陷は一刻も等閑を許されたいところでは、婦人の活動能力の増進上、最善のものとする

婦人の日々の生活は、國民皆勞の線に沿つて或ははた國土防衛の分野におい

て、安閑としてゐることは許されません。これらの活動に即應する機能の工夫はまた當然のことといふべきです。

五、現下の纖維事情に鑑み退職衣類の活用、衣料の節約等、經濟上、最善のものとする

わが國の衣料原料は、絹織物を除いて今までの殆んどを海外に依存してゐましたが、輸入の杜絶と軍需の激増、更に大東亜共榮圏内への負擔の加重は、羊毛、棉花等の資源を確保しない限り、當分の間は今日以上に忍ばねばならぬ實狀で、衣料節約制を實施した所以もまたここにあり得るから、私達は先づ手持ち古着の更生と活用を圖り、新たな消費は出来るだけ避けて必要の最少限度に止むべきです。

六、婦人の生活に即應させ、自家縫製主義を徹底すること

日本婦人として自分で裁縫することは當然のことで、こゝに裁縫の簡易と単純化が考へられねばなりません。

右のほか氣候、風土、或は住居との

適應についてももちろん考慮されてゐますが、これらの原則に基ついて考案された型式が、この原則に反しない限り、部分的な應用工夫を認め、また地色、色、柄合等も、日本的なものである限り隨意とされてをり、婦人服の場合、しかも日常に着用する限り、一定の制約的なものにするには至難であり、また衣服の明日への文化的成長に備へて相當ゆとりのあるものとしてゐます。『婦人國民服』といはず『婦人標準服』といふ所以もこゝにあるのです。

考案の型式

さて以上の方針に基ついて考案された型式は、大別して甲型と乙型の二種になつてをり、これに附随して活動衣が定められてをります。衣類にその概要を述べませう。

甲型 これは「上衣および下衣よりなる二部式とし帯を附す。また、これを右側のやうに二部式一部式各が一號と二號に分類されてゐますが、兩者の組合せ



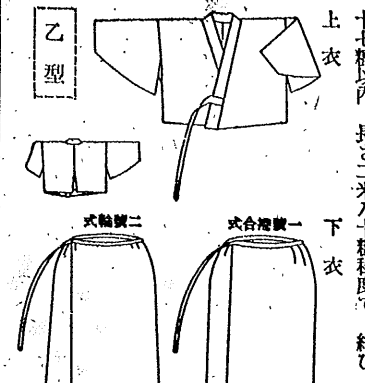
は南方地方では半袖にすることも出来、袖は山を低くし、また前後の列を略等しくして脇開を作ることになつてゐます。また下衣は足を必ず服履を履く程度かそれより長くし、袴式で裾廻りは一米八十程度度としてゐます。帯は型、用布等を隨意に工夫することが出来、また下着の組合せについても、一應その順序を肌着、腹巻、下穿き、中穿き、胸着、中着として適宜に保溫の調節を圖るやうになつてゐます。

なほ上衣下衣には原則としてポケットをつけることになつてをり、また外套も右前合せにして、婦人等は隨意とされ、洋装につきものの帽子等は廢されてゐます。

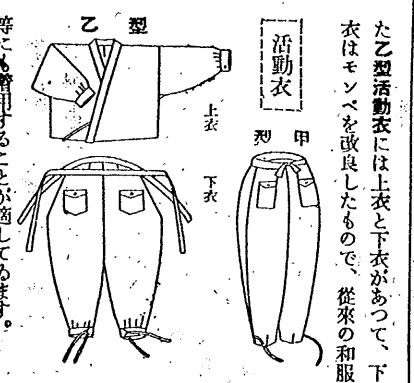
乙型 これは「上衣および下衣よりなる二部式とし帯を附す。但しこれを一部式となすことを得となつてをり、この型のものゝ、型は次ぎの圖のやうに、上衣と下衣の一號捲合式二號捲合式に區分されてゐます。なほ、この乙型の上衣と甲型下衣とを組合せて着用することも差支へありません。

この乙型の生地とか仕立等は、従来の和服と變りありませんが、二部式といふ點で

上下、替り生地を適用することが考へられます。上衣の身頃は前後一枚縫きか又は肩山で切替へることもでき、また袖をつけることも出来ず。袖は筒袖式で袖底型を一應基本としていますが、袖丈三十八種の制限内で適宜の型に工夫ができ、また脇開を作ることもなつてゐます。下衣の丈は、膝に達する程度とし、捲合式では裾廻りを一米三十五程度とし、輪式では上衣の襟下に當る位置で折返し、内裏で裾口から上へ二十五程度開き、廻りは裾一米五十程度とすることになつてゐます。帯は巾を十七種以内、長さ二米八十程度で、結び



方はもちろん隨意です。また下着の組合せは、甲型と同様に肌着、腹巻、下穿き、中穿き、胸着、中着の順序となつてゐますが、特に従来の裾の缺點を補ふため、中穿きが考案されてつて、型は圖の通りです。なほ羽織等は隨意ですが、袖丈は三十八種以内とし、身丈は膝に達する程度とされてゐます。



これは日常家庭で立ち働く場合の便を考慮したもので、農事作業とか工場作業等までは考へられてゐません。これは別の關係で考へられてゐます。この活動衣にも甲型と乙型の二種があつて、型は圖の通りですが、甲型活動衣は下衣だけで、甲型の上衣と組合せるのが適當で、ま

結び

多年要望されてゐた婦人服改善の問題も、この標準型の決定によつて大體の解決をみたことは、邦家のためまことに慶びに堪へません。國民、特に婦人の皆さんは、「衣」の生活に正しい認識を持たれて、これを機会に衣服文化の向上發展に十分な準備を整へ、やがて名實ともに世界の水準を抜く獨自にして優れた衣服文化が創造されましますやう希つてやみません。

インド洋作戦と潜水艦

インド洋作戦の展開

帝國陸海軍部隊の精銳は、三月二十三日未明、突如南アングマン島のポート・ブレアに奇襲上陸を敢行、たちまち同島にあつたイギリス軍を無條件降伏させてしまつた。

アングマン島は、インド洋から東洋に至る咽喉を扼する要衝であるとともに、インドの要地であるマドラス、カルカッタ、コロンボ、ツリンコマリへの等距離をなす島の要ともいふべき中心點であり、イギリスは同島をシソガポールとインドをつらねる東盟攻略の中継地として、防備強化に狂

奔してゐた。したがつて、同島を皇軍に制壓された今日、イギリスは、インド防衛の外郭を失ふことになり、少くともベンガル灣の死命は、わが手に制せられたといつてよい。

今やわが雄渾無双の大作戦は、西は五千哩をへだたるインド洋へ、東はこれまた五千哩のアメリカ西海岸へ、實に東西一万哩、南は赤道を越えてはるか南緯帶圏へと伸び、渺茫たる大戦域を形成するに至つたが、われわれが隣時も忘れてはならぬのは、わが精銳無比の潜水艦は、かゝる大海域のいたるところに神出鬼没、端倪すべからざる作戦を遂行して敵に無限の壓力と脅威

大本營海軍報道部

を與へてゐることである。

インド洋作戦にしても、わが勇猛なる潜水艦は、早くからマラッカ海峡を越えて、晝夜の別なく敵影を索めて縦横の活躍をつづけ、敵海上交通に深刻な打撃を與へてゐるが、すでに三月十六日まで

- ▼コロンボ方面 武裝商船二隻(六千五百トン)、油槽船三隻(二万トン)
- ▼マドラス方面 武裝商船三隻(二万四千トン)、油槽船一隻(七千トン)
- ▼ラングーン方面 武裝商船二隻(二万九千トン)、貨物船一隻(五千トン)

といふ戦果をあげ、イギリスのインドから遠洲方面への救援線を遮断し、